

中国金融業界における AIエージェントの活用

中国金融業界ではAIエージェントの実用化が進んでいる。AI基盤モデルの高度化、預貸金利ざやの縮小に伴うコスト削減圧力の拡大、そして政府の政策支援などが背景にある。一部業務の自動化・効率化のレベルは着実に上がっている。もっとも、重要な意思決定を要するプロセスでは、なお人間による確認が欠かせない。

金融AIエージェント発展の背景

中国金融業界は、AIエージェント導入の実証実験から本格導入へと移行し、与信やリスク管理、投資運用といった中核業務において、業務プロセスや意思決定の効率化に大きな変化をもたらしている。この背景には、AI基盤モデルの高度化、金融機関におけるコスト削減や作業効率化需要の拡大、そして政府による政策支援がある。

基盤モデルの進化を受け、近年、RAG¹⁾の導入、OCR²⁾とルールエンジン及びRPA³⁾との連携などの取り組みが進み、AIエージェントの実用化に向けた技術的素地が整えられてきた。

また、「適度に緩和的な金融政策」の継続による預貸金利ざや（NIM）の縮小や利益の圧迫は、銀行におけるコスト削減と業務効率化の動きに拍車をかけている。加えて、融資や引受査定に係る資料の増加、パーソナライズされた金融サービスへの需要拡大も、金融機関のDXを一段と推進する要因となっている。

政策面では、発展改革委員会など3部門は2026年5月、「AIエージェントの規範化された応用と革新的な発展に関する実施意見」を発表し、金融リスク管理向けAIエージェントの開発、与信審査や取引監視、口座セキュリティにおけるリスク識別能力の向上を打ち出した。「原則ベースの指導」から「ルール整備とイノベーション推進の並行」へと転換した政策方針は、金融AIエージェントの開発・活用を加速させる要因となっている。

金融AIエージェントの活用事例

金融業界におけるAI活用は、情報収集や問い合わせ対応といったレベルから、AIエージェントによるタスクの自律的な遂行へと広がりつつある。銀行分野では与信やリスク管理、証券分野では投資支援や資産配分、保険分野では引受・保険金請求などの業務自動化が先行している（図表）。

一例を挙げると、工商銀行（ICBC）では2025年、融資業務の全プロセスを対象とするAIエージェント・

図表 金融分野におけるAIエージェントの活用事例

分野・事例	銀行：中国工商銀行 「智貸通」	証券：国泰海通 AIエージェントのマトリックス	保険：平安損害保険 「鲲鹏智能体平台」
主な利用者	融資審査担当者、リスク管理担当者、リレーションシップ・マネージャー	投資顧問、カスタマーサービス担当者、営業担当者、法人顧客、個人投資家	引受査定、保険金支払い、業務運営、営業などの業務の担当者
活用業務	企業の資金需要分析、与信調査、業界リスク分析、貸出条件の決定など	投資アドバイザー支援、AIカスタマーサービス、銘柄選定、相場モニタリング、市況・投資情報分析、取引戦略のバックテスト、保有資産分析、企業向け金融サービスなど	新車保険証券の発行、損害保険の引受査定、災害リスク予測、リスクコントロール
実績	・関連する信用リスク評価の精度が15ポイント以上向上	・2026年6月末時点で、霊犀知能化サービス ^{注)} は、延べ8300万人にサービスを提供 ・「君弘智投」を利用している顧客の投資勝率は56.6%と、未利用客より15.8ポイント高い ・AIスーパーアシスタントは、同社の6000名以上の投資アドバイザーに延べ38.8万回の支援サービスを提供	・新車保険証券の93%はシステムにより自動的に処理され、平均所要時間は6分から1.2分に短縮 ・初回引受査定の平均所要時間は約1.5時間に短縮 ・引受査定担当者の1日あたりの処理件数が従来の2倍に増加 ・リスク遮断率が16%向上
自動化レベル	顧客開拓からデューデリジェンス、審査・承認、融資後管理まで全プロセスを支援。重要判断は人が確認	情報収集・分析・投資支援を自動化。取引判断・発注は投資家の確認が必要	保険証券発行など一部業務で高い自動化。引受・リスク管理では人とAIが協働

(注)「霊犀APP+AIエージェント+霊犀Skill」、本文参照
(出所) 各種報道を基に野村総合研究所作成

NOTE

- 1) Retrieval-Augmented Generation (検索拡張生成)。大規模言語モデル (LLM) によるテキスト生成に、外部情報の検索を組み合わせることで、回答精度を向上させる技術。
- 2) Optical character recognition (光学的文字認識)。活字や手書きテキストの画像をテキストデータに変換する技術。
- 3) Robotic Process Automation (定型業務自動化)。定型的なPC作業をソフトウェアロボットで自動化する技術。
- 4) 複数のAIエージェントが協調して稼働するシステムやプラットフォームを指す。集中管理または分散協調の仕組みを通じて、機能の異なるAIエージェントをチームのように連携させ、単一モデルでは対応困難な複雑なタスクの遂行を可能にする。
- 5) 国泰海通証券が個人顧客向けに構築したデジタル投資支援サービスシステム。資産配分や投資支援などを提供。

マトリックス⁴⁾「智貸通」を構築した。従来のAIシステムがデータ収集・分析に留まっていたのに対し、「智貸通」はデータ収集・分析から融資条件の提示、融資後の定期的なリスク評価までの全プロセスの自律的な実行が可能とする。

同行の支店は智貸通を活用し、綿花産業向けモデルを開発した。気候予測や先物価格の変動と、銀行の融資管理規定などの情報を統合し、複数のAIエージェントによる融資額を自動算定することによって、審査担当者に意思決定を支援している。

証券業界では、国泰海通証券は自社開発の大規模AIモデル「君弘霊犀」を基盤に、「霊犀App+AIエージェント+霊犀Skills」からなるAIサービス基盤を構築している。ウェルスマネジメント分野での投資サービス、各種手続き、業務運営などの利用場面向けに40超のAIエージェントからなるマトリックスを整備したほか、「君弘智投」⁵⁾でも60超のAIエージェントからなるマトリックスを導入し、顧客の投資行動の改善に活用している。

また、投資アドバイザー向けには「AIスーパーアシスタント」を提供し、資産配分の提案に加え、投資口座の健全性チェックや投資後の継続的なフォロー機能も付随している。

顧客対応では、カスタマーサービスやオペレーター支援だけでなく、コールバックなどの顧客サービスの品質を検査するAIエージェント・マトリックス「95521スマートカスタマーサービス」が構築されている。

個人顧客向けには、「霊犀App 3.0」を通じて、従来の銘柄選定や相場モニタリング、問い合わせ対応に加え、保有資産の自動フォローや取引戦略のバックテストを実装する。同アプリは「君弘智投」と連携し、AIを

活用した投資支援や資産配分サービスを個人投資家に提供する。

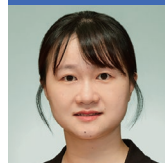
一方、法人顧客向けには、業界初のプライマリーとセカンダリ市場を横断する総合的な金融サービスプラットフォーム「道合・企業版」がある。従来は情報収集が中心だったが、同プラットフォームは産業・企業の調査・分析、業界マップ、株式譲渡、社債発行・管理などのサービスを提供し、事業戦略、資産配分、大口取引、財務管理など幅広い企業ニーズに対応している。

保険業界では、平安損害保険は自社開発のAIエージェントプラットフォーム「鯤鵬智能体平台」を基盤に業務自動化を推進している。

例えば、同社はAIによる保険証券の自動発行システムを構築し、発行プロセスの自動化を実現した。また、「デジタル引受査定担当者」を作り、団体向け非自動車保険を対象に、引受査定に関する照会対応、顧客・リスク分析、書類チェックを自動化している。さらに、保険金請求のリスク管理では、案件リスクスコアリングモデルや車載システムリスク管理モデルを構築し、「事前警告、事中对応、事後監査」の自動実行体制を整備した。

このように、各分野でAIエージェントの導入が進んでいるが、その活用には濃淡がみられる。融資・投資支援や引受査定などでは活用が進むが、顧客の権利や財務に重大な影響を及ぼす意思決定では、まだ人による確認・最終判断が必要とされている。

Writer's Profile



楊 晶晶 Yang Jingjing
NRI北京 調査デスク
研究員
専門は中国マクロ経済、Fintech
focus@nri.co.jp